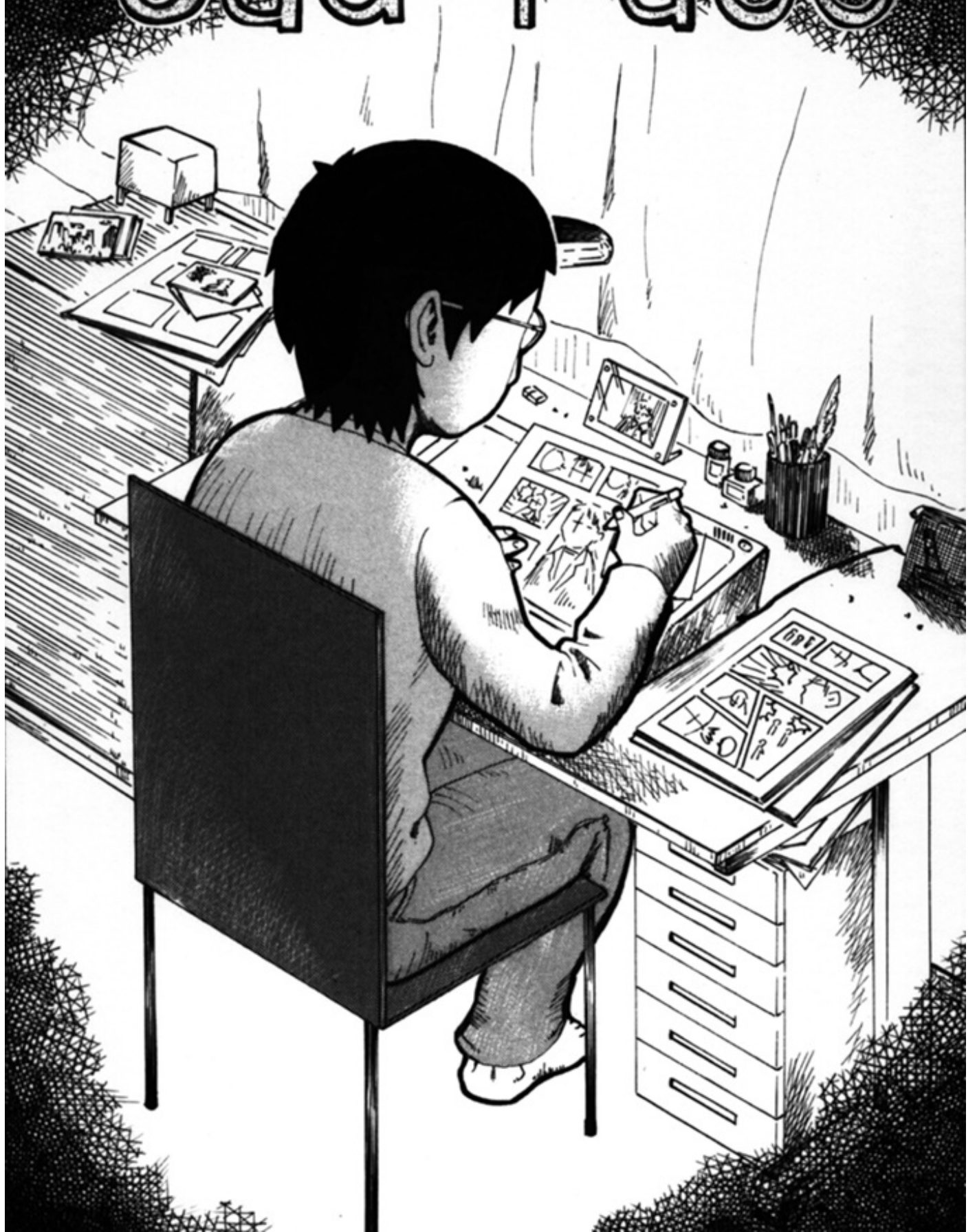
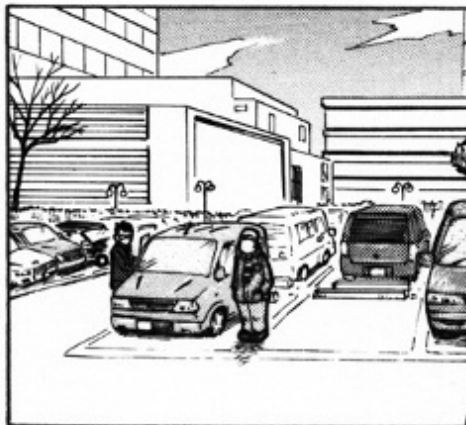


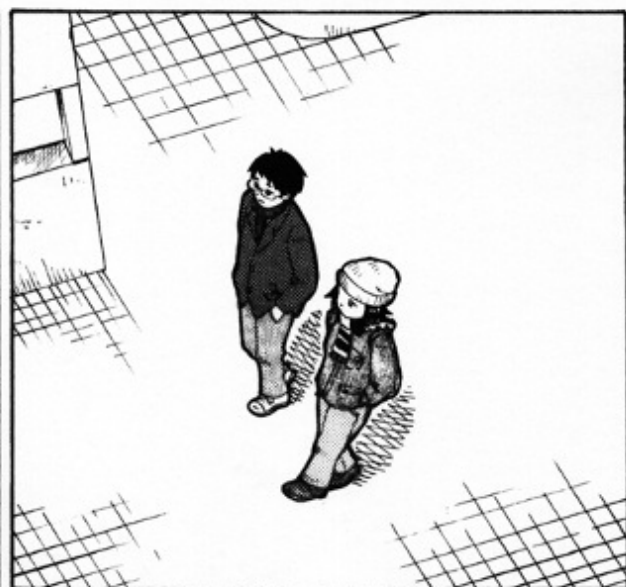
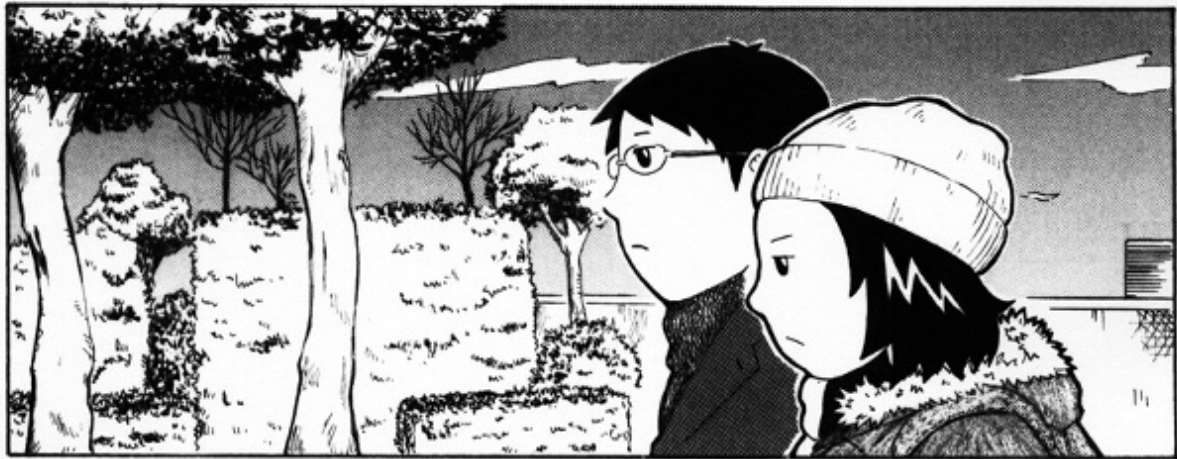
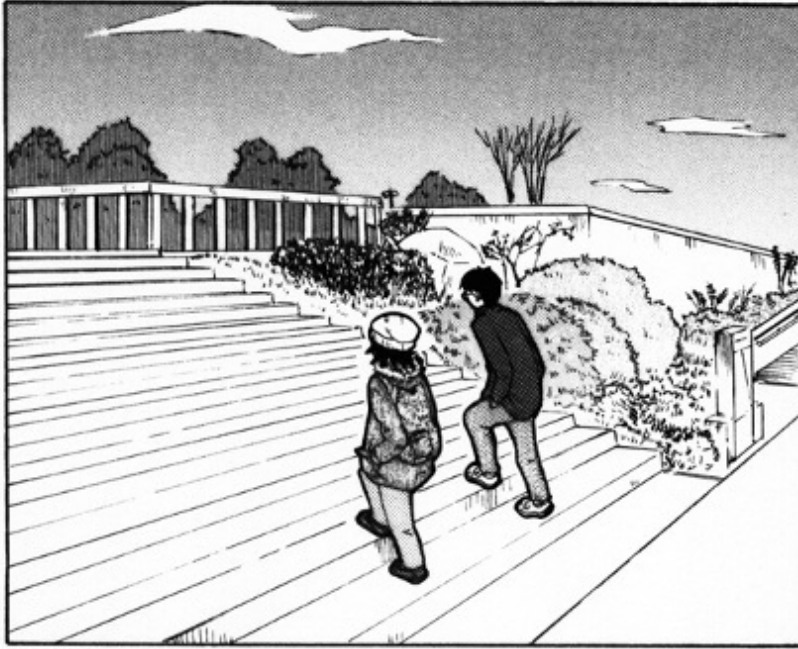
Sad Face

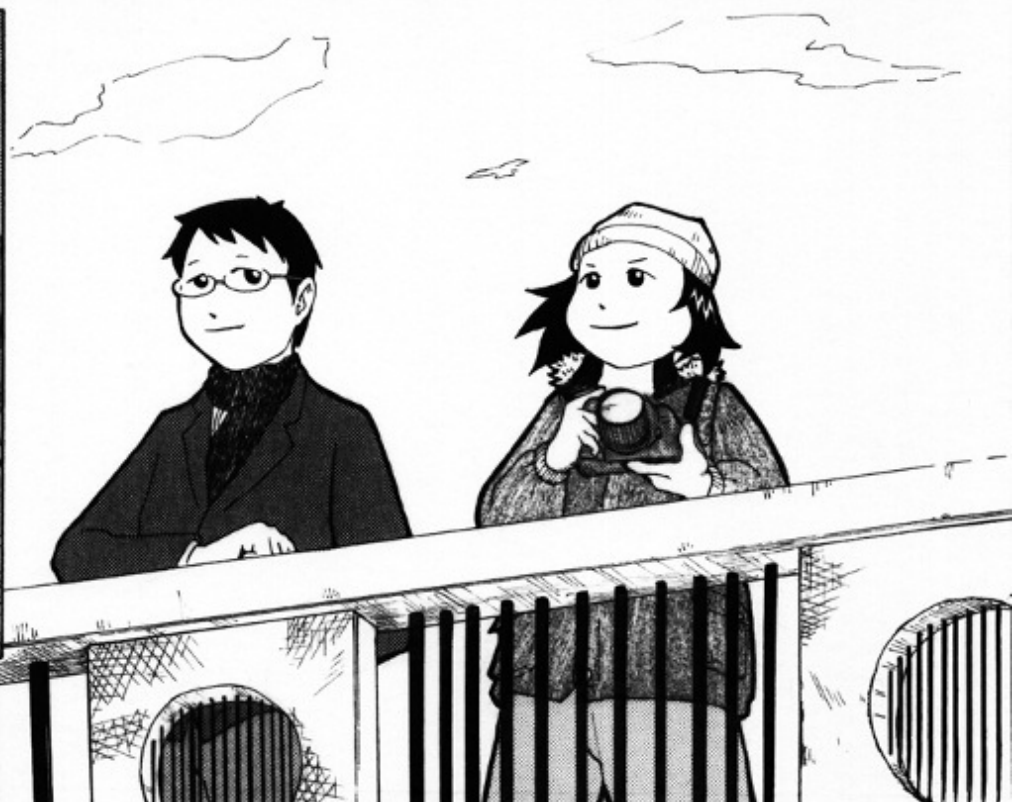


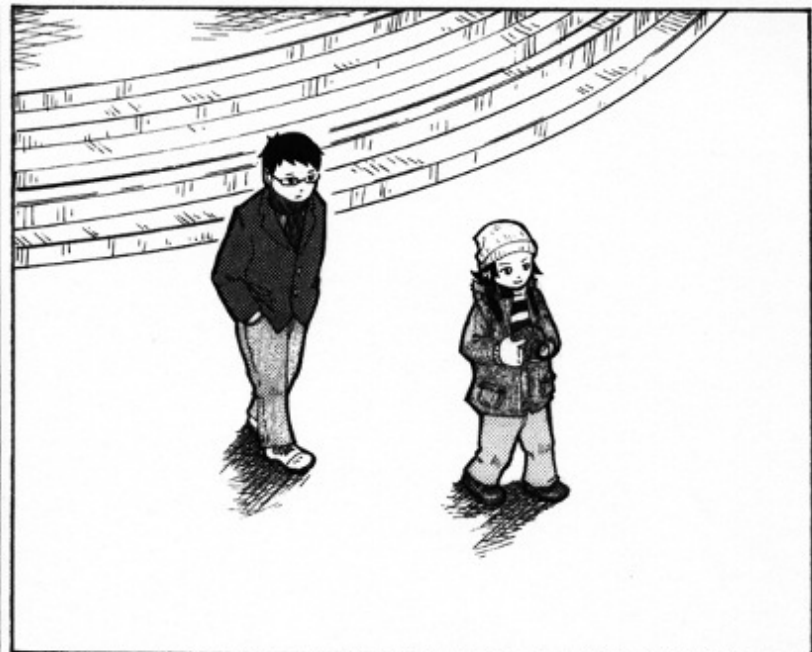
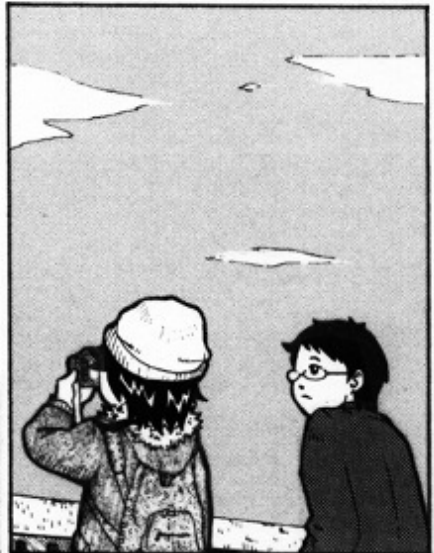
Sad Face











僕らが別れたのは
半年前だった・・・



付き合ってた
六年にもなるのに
終わりはあつげなかつた



これからの二人の
ことちゃんと思え
てるの？

別に・・・



もういい！
別れる！

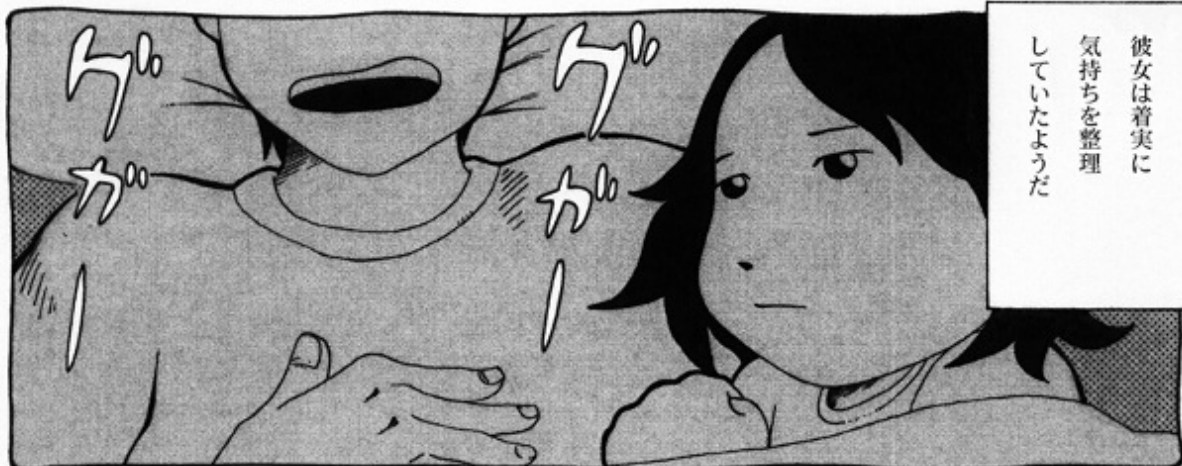
この時は
いつものケンカ
だと思っていた





僕は別れたこと
なんて気にして
なかったけど

それからも彼女とは
以前と変わらず
よく遊んでいた



彼女は着実に
気持ちを整理
していたようだ



いや別に...
ごめん
今作業中だから

強がりだった

どう?
気になる?

へー
そうなんだ

それからしばらくして
彼女に彼氏ができた



一人で過ごす
時間が増えていった



それから連絡も
無くなっていき

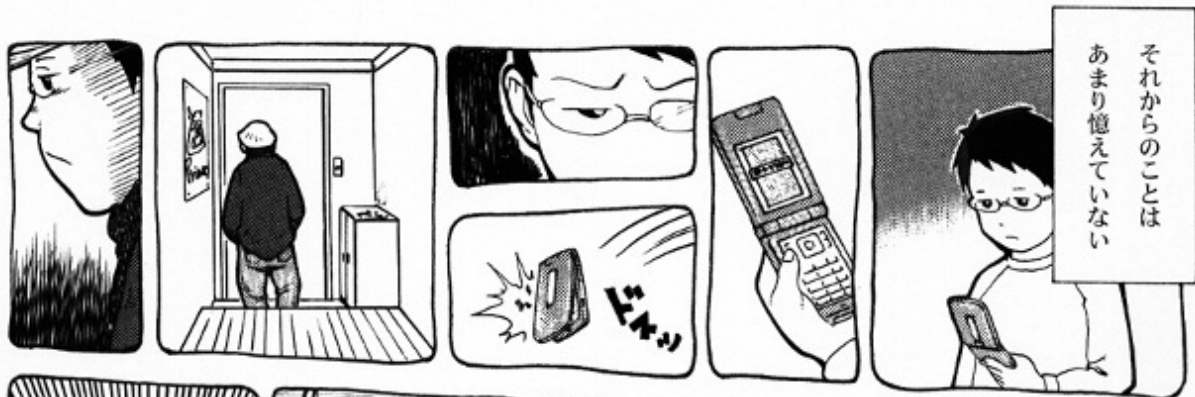


僕は
孤独になった……

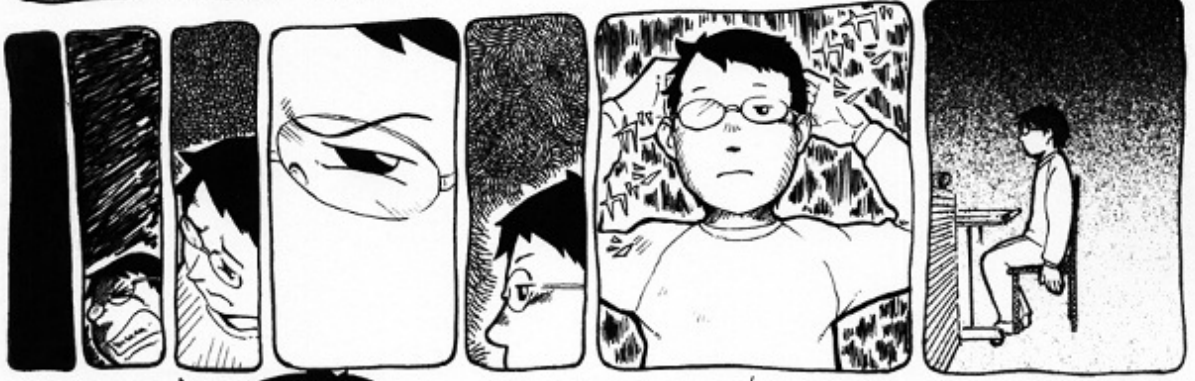


何だか心に
穴が開いたような
感じがしていた





それからのことは
あまり憶えていない



そんな自分を心配して
誕生日の今日彼女は
僕を食事に誘ってくれた



気がついたら
声を出して
泣いていた



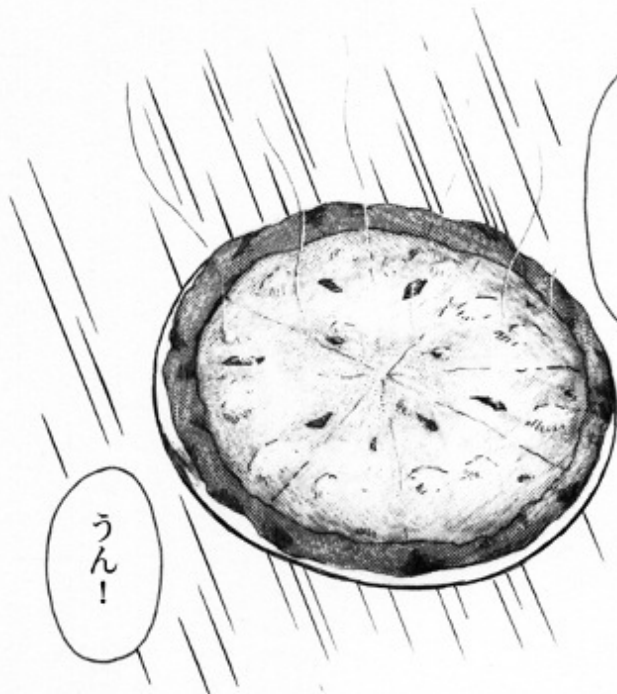


カシヤ









うん!

ねっ
うまそうでしょ



マルゲリータ
お持ちいたしました



おっと
カメラ
カメラっと

カチャカチャ

カチャ



なかなか
好評でさー

うん
今ネットで公開
してるの

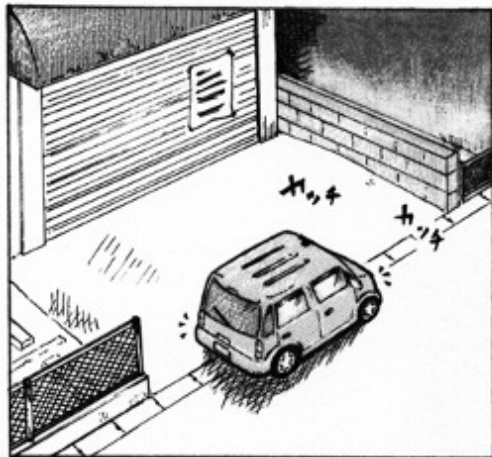


ほんと写真
好きなんだね

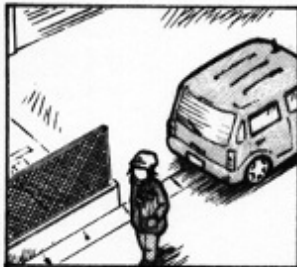
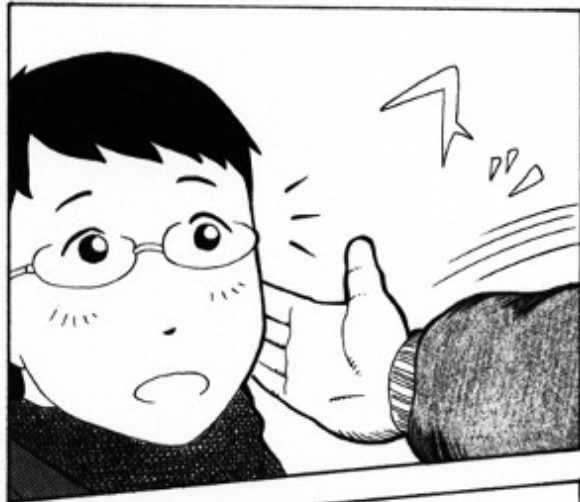








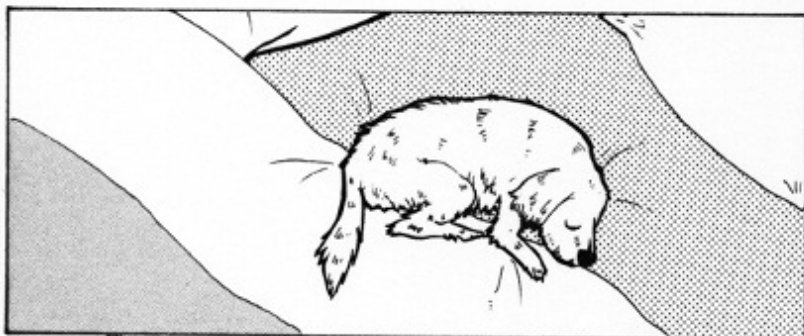






愛してるよ

MAYUMI LOVE



まるで自分の一部を
剥ぎ取られたようだ
こんなに彼女の存在が
大きかったとは

こうなるまで
気づかなかったことが
たくさんある

僕は・・・



僕はどうしたら
いいんだろうか



僕はこれから……

これから
どうしたら……



悲しむだけ
悲しむことしか

今の僕には
できなかつた



それから半年後
彼女から手紙が届いた



封筒にはもう一枚
なにか入っていた

どうやら今の彼と
結婚するらしい

「あなたの物はすべて
処分しようとしたけど

これだけはどうしても
捨てられないから
悪いけどもらって」
とのことだ



そこには
哀しい顔をした
僕が写っていた

僕は今でも
こんな顔を
するのだろうか

